

自分に必要な防災情報の抽出から避難行動までを一元化した防災支援システム

- 防災に関する情報は、様々な機関から多様な情報が発信されていますが、その一方で、自分にとって有用な情報を見つけ出すのは難しくなっています。
- 能登半島地震では、住んでいる場所の災害の危険性の理解と避難訓練の積み重ねが迅速な避難につながった地域がありました。
- こうした知見を踏まえ、自らがいる場所の災害の危険性を簡易に理解でき、避難に必要な日頃の準備や適切な避難行動につなげることができるシステムを開発しました。

ポイント① 現在地 (GPS) による水害リスク検索

- ✓ LINEトークによって、現在地をGPSにより送信することで、現在位置の水害リスクを表示します(津波、洪水、土砂災害)。



ポイント② リアルタイム情報(キキクル)

- ✓ 洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)と土砂キキクル(大雨警報の危険度分布)の情報をリアルタイム情報として提供します。



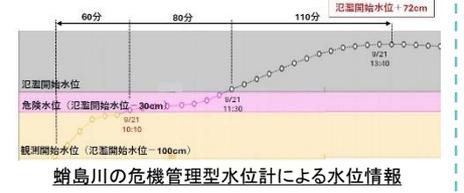
※山間部等を通る中小河川や近辺に人家等がない崖や溪流は、ハザードマップで洪水や土砂災害のリスクが表示されないため、洪水キキクル、土砂キキクルを活用することも必要です。

ポイント③ リアルタイム情報(川の水位情報)

- ✓ 河川に設置された危機管理型水位計の水位、河川カメラの映像等をリアルタイム情報として提供します。



※昨年9月20～23日に発生した「令和6年(2024年)奥能登豪雨」にて氾濫した蛸島川において、危機管理型水位計により水位の状況を把握できました。



ポイント④ 防災クイズ

- ✓ 自然災害のリスクや事前の備え、災害発生時の避難行動などをクイズ形式で分かりやすく解説します。



※「地震・津波編」と「大雨編・土砂災害編」の防災クイズを通して、避難に役立つ情報を学ぶことができます。